

# I 種 苗 生 産

種苗生産結果表 1 頁

## 1 方 法

親魚は前年度より 1 尾増えて 19 尾（年令、雌雄比不明、平均体重 3.47 kg）であった。採卵並びに仔魚飼育方法はほぼ前年度に準じて行なった。

使用した餌料の投与期間、総投与量を途中中止区を除いて図 1 に示した。マガキ幼生は 6 ~ 13.7 個体/ml の密度で前年度に比べやや少な目であった。また S 型ワムシは、今年度クロレラだけで二次培養を行なった。S 型ワムシ投与量は飼育水中の密度が 20 個体/ml 以上になる様不足分を追加した。今年度はワムシの増殖が不調で一部冷凍ワムシを使用した。

今年度は飼育日数が長かったため配合飼料及びハマフエフキ受精卵（冷凍卵も含む）の投与量が増加した。特にハマフエフキ受精卵を多用し、余剰卵の利用方法の目処がついた。

飼育水はワムシ増殖不調のため流水飼育開始が 10 日前後遅れた。さらに流水、止水を断続的にくりかえし、終日流水飼育を開始したのは、ワムシ投与を終えてからであった。流水量は最終的に 5 回転/日で前年度より大幅に増した。

通気方法は、日令 7 まではエアーストーン 3 個より微通気とし、以後は 0.8 mm の穴を 20 cm 間隔であけた塩ビパイプを水槽長辺側底部に設置して行なった。

底掃除は原則として毎日 1 ~ 2 回行なった。

取り揚げは前年度とほぼ同方法で行なった。

## 2 結果及び考察

種苗生産結果を表 1 に示した。

合計 21,053 尾を生産しそのうち 20,500 尾を中間育成に供した。

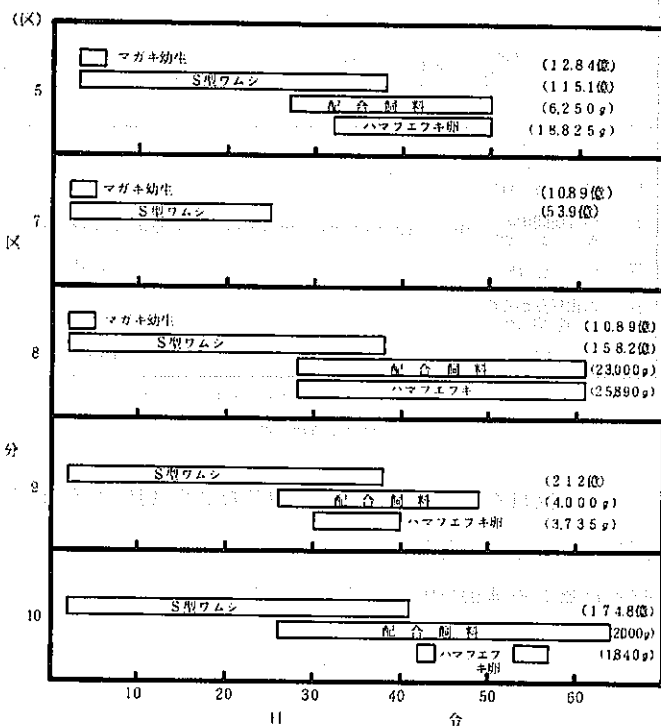


図 1 餌料と投与期間（総投与量）

表 1 種苗生産結果

区 分		1	2	3	4	5	6	7*	8*	9	10**
収 容	水 槽	7 × 4 × 1.9 m (有効水量45m <sup>3</sup> )									
	月 日	5. 19	5. 19	5. 27	5. 27	6. 12	6. 12	7. 7	7. 7	7. 15	7. 15
	卵 数 (千粒)	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,690	2,340	1,560	2,340
	ふ化仔魚数 (千尾)	1,430	1,290	1,422	1,382	1,311	1,465	1,159	1,677	1,462	2,206
	ふ化率 (%)	91.7	82.7	91.2	88.6	84.0	93.9	68.6	71.7	93.7	93.4
収容密度 (千尾/m <sup>3</sup> )	3.17	28.7	3.16	3.07	2.91	3.26	2.58	3.73	3.25	4.90	
取 り 場	月 日					8. 1		9. 2	9. 2	9. 17	
	飼育日数 (日)					50		61	49	64	
	飼育期間中の水温 (°C)	20.4~24.0	19.9~23.9	22.6~24.8	22.4~24.6	23.5~28.4	23.3~27.7	26.1~28.5	26.0~28.3	26.0~28.0	
	尾 数 (尾)					7,800		7,800	4,900	5,130	
	ふ化仔魚からの生残率 (%)					0.6		-	0.3	0.02	
全長 (平均±SD)					20.9±3.1		30.1±4.7	20.4±2.6	25.5±4.8		

\* 生残数激減のため日令25で統合

\*\* 陸上水槽で継続飼育

1~4区は全て日令7~12の夜間計数で生残数10万尾以下となり飼育を中止した。この時の投餌開始時の水温が24°C以下であった。前年度の飼育例をみても投餌開始時には24°C以上となっており、飼育に適した水温は24°C以上が望ましい。